

[事業報告]

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）事業報告

概要

当財団は、自然科学の基礎研究を助成振興し、もって我が国の科学研究の向上発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。この目的を達成するため、本年度も自然科学における多岐の分野に亘る、基礎研究課題に対する研究援助及び成果発表会の開催、研究者の海外派遣に対する援助、並びに国際学術集会の開催援助を実施した。

本年度は、従来の事業の実施に加え、研究援助の中に、特に援助を必要とする研究者を対象とした「女性活躍支援枠」及び「チャレンジ支援枠」を新設し、選考・採択を行い、援助を開始した。一方で、国際学術集会の援助事業については、事業内容見直しの検討を開始し、2～3年後に開催予定の「設立50周年記念事業」についても準備を進めた。また、当財団の援助を受けた研究者による成果報告の機会である研究交歓会では、財団関係者とのコミュニケーションの充実を図り、活発な質疑が行われた。

本年度の公益目的事業費としては、従来の事業の継続に加え、新設した研究援助の2つの援助枠の援助を開始したが、その他の関係費の削減等により、総事業費の実績は予算を若干下回った。

今後も引き続き、自然科学の基礎研究の助成振興のため、活躍が期待される研究者への支援を進めて行く所存である。

事業名	予算 (万円)	件数				実績 (万円)	摘 要
		募集	応募	採択	実施		
研究援助（学会・個人推薦枠）							
2024年度	4,000	18	114	19	19	4,000	左記の通り援助を実施
2025年度	-	18	121	-	-	-	応募内訳：学会推薦111件、個人推薦10件
研究援助（女性活躍支援枠）							
2024年度	400	3	60	4	4	400	左記の通り援助を実施
2025年度	-	6	105	-	-	-	
研究援助（チャレンジ支援枠）							
2024年度	400	3	34	3	3	400	左記の通り援助を実施
2025年度	-	6	68	-	-	-	
海外研究援助							
2024年度	1,500	8	82	15	15	1,500	左記の通り援助を実施
2025年度	-	8	82	12	-	-	採択内訳：個人A：4件、個人B：7件、グループ：1件（計12件）

[事業報告]

事業名	予算 (万円)	件数				実績 (万円)	摘要
		募集	応募	採択	実施		
国際学術集会							
2024年度	667	-	-	-	1	667	第7回山田シンポジウムについて採択金額の残りの援助を実施し、8月に開催された。
2025年度	316	-	-	-	1	316	第77回山田コンファレンスについて準備費用として採択金額の一部の援助を実施した。
2026年度	-	1	1	1	-	-	1件を採択した。
山田研究会							
2024年度	100	-	-	-	1	100	採択決定額通りの援助を実施し、9月に開催された。
2025年度	-	2	2	1	-	-	1件を採択した。その後さらに1件応募があり、2025年度に選考審議予定。
海外研究交歓会	290	-				227	4月に大阪で対面開催にて実施した。 (参加者41名)
研究交歓会	500	-				455	10月に東京でハイブリッド開催にて実施した(オンラインを含めた参加者68名)。
その他の事業費	2,797	-				2,789	連絡委員会(4回)、ワーキンググループ、財団ニュースの発行、Proceedings冊子作成等
計	10,970	-				10,854	

1. 自然科学の基礎的、学際的研究に対する援助

1) 研究援助

研究援助事業は、自然科学の各分野(物理、化学、生物・医学等)における萌芽的、独創的基礎研究に対して研究費を援助するものである。本年度は学会推薦と個人推薦を合わせて114件の応募があった。選考委員会による審査の後、理事会で原案通り決議され、援助課題19件、総額4,000万円の研究費援助を実施した。また、本年度より、特に援助を必要とする研究者を対象として新設した「女性活躍支援枠」及び「チャレンジ支援枠」についても選考委員会での審査が行われ、理事会で原案通り決議された。「女性活躍支援枠」については、援助課題4件、総額400万円、「チャレンジ支援枠」については、援助課題3件、総額800万円(400万円/年で2年間)の援助を実施した。

研究交歓会については、10月19日(土)東京において対面とオンラインを併用したハイブリッド開催を実施した。2022年度に研究援助を受けた22名の研究者から成果発表が行われ、財団関係者との活発な意見交換および質疑が行われた。

2. 科学の研究を行うための招聘・派遣、その他国際学術交流に対する援助

1) 海外研究援助

海外研究援助事業は、若手・中堅研究者が海外の大学や研究機関等に一定期間(1か月~1年間)滞在して共同研究を実施するために必要な経費を助成し、これによって新しい研究の方向性を見出した研究者とその研究に興味を持つ海外研究機関等との国際交流を活発化することを目的とし、従来の長期間派遣援助事業を改定して、2020年度より公募

[事業報告]

を開始した事業である。本事業では、従来の個人の海外研究だけではなく、グループで行う共同研究も援助の対象とし、援助金額 100 万円を上限とした個人 A、同 200 万円を上限とした個人 B 及びグループの 3 つの申請区分で公募を実施した。

2024 年度に実施した援助は、本年度に採択された 15 件（個人 A：4 件、個人 B：8 件、グループ：3 件、計 1,500 万円）について援助を実施した。

2025 年度の援助予定は、本年度に応募のあった 82 件の中から、選考委員会による審査により 12 件（個人 A：4 件、個人 B：7 件、グループ：1 件、計 1,800 万円）が採択案として提出され、理事会の決議を経て原案通り採択が決定した。

3. 自然科学に関する学術集会の開催援助および開催

1) 山田コンファレンス及び山田シンポジウム

「山田コンファレンス」は、自然科学の基礎的分野をテーマとする国際学術集会であり、特定の研究領域において最先端の研究を実施している研究者による高いレベルの討論を行うことを目的としている。

「山田シンポジウム」は、現在最先端の研究を実施している研究者によるチュートリアルな講演と、それを巡る講演者と次世代研究者との対話・討論を主とし、これによって当該分野の新しい発展を担う新進気鋭の若手研究者を育てる事を目的としている。

本年度は、第 7 回山田シンポジウム「第 7 回国際ポリアミン会議」（主催責任者：関西学院大学・藤原伸介教授）が 8 月に神戸で開催された。採択金額 800 万円のうち、既に準備費用として一部が支払われたため、本年度は残り費用 667 万円の援助を実施して開催され、開催終了後、開催責任者から実施報告・決算報告・Proceedings 等一式が提出された。

また、2025 年度開催予定の第 77 回山田コンファレンス「第 22 回時間分解振動分光学」（主催責任者：大阪大学・水谷泰久教授）について、準備費用として採択金額（790 万円）の一部となる 316 万円の援助を実施した。

なお、2026 年度開催が計画される国際会議については 1 件の応募があり、選考委員会による審査の結果、第 78 回山田コンファレンス「ゲノム安定性と DNA 切断修復」（主催責任者：東京都医学総合研究所・笹沼博之副参事）が採択案として提出され、理事会により 800 万円の援助を実施することを決定した。

2) 山田研究会

基礎科学研究者の自由な発想の交換と相互啓発を促進する「山田研究会」について、本年度は、「QBI 2024-量子線イメージング研究会」（開催責任者：東京理科大学・幸村孝由教授）について 100 万円の援助を実施した。当該研究会は、本年 9 月に開催され、開催責任者から実施報告が行われた後、財団ホームページ、事業報告書および財団ニュース等に掲載された。

また、2025 年度については、本年 7 月の選考委員会において「炭素資源の有効利活用を志向した光・電気・有機化学の若手学際研究」（開催責任者：九州大学・平井剛教授、大

[事業報告]

阪大学・正岡重行教授)が推薦され、選考委員会による審査の結果、理事会により100万円の援助が決定された。また、その後、さらに1件の研究会が推薦され、2025年度に選考・審査予定である。

4. その他

1) 財団ニュース

当財団の広報紙である財団ニュースを2回発行し、当財団関係者、当財団への寄附者、研究援助や海外研究援助の採択者、国際学術集会及び山田研究会の関係者に配布し、コミュニケーション及び広報活動の一環とした。

2) 事業報告書

第47回事業報告書(2023年度)を発行し、当財団関係者、大学・研究機関、推薦依頼学会、図書館、関係省庁、民間助成財団等へ寄贈した。